

# トビウオ通信 (R5 第5号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和4年漁期の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和4年漁期（令和4年8月～令和5年5月）の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業（かけまわし）」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業（2そうびき）」の動向について紹介します。

### 小型機船底びき網漁業（かけまわし）

#### 1 隻当り漁獲量・水揚金額ともに平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業（かけまわし）37隻の令和4年漁期（令和4年9月1日～令和5年5月31日）の総漁獲量は3,173トン、総水揚金額は16億3,666万円でした。また、1隻当りの漁獲量（以下、CPUE）は87トン、水揚金額は4,464万円で、漁獲量は平年を8%下回り、水揚金額は平年を9%上回りました（過去10年平均：94トン、4,094万円）（図1）。

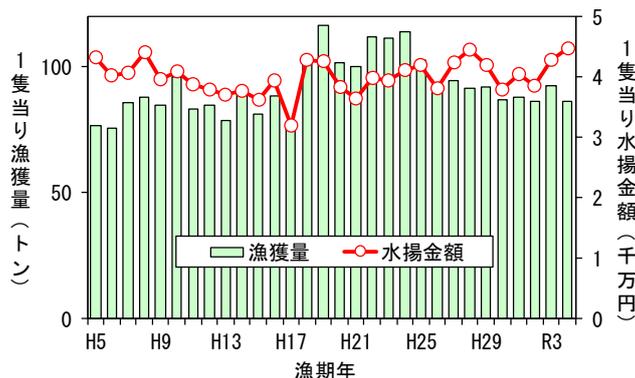


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の経年変化

#### ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

ソウハチのCPUEは14.1トンで平年の8割、ムシガレイのCPUEは2.3トンで平年の8割、ヒレグロのCPUEは5.5トンで平年の8割、アカガレイのCPUEは4.2トンで平年の7割の水揚げとなり、4魚種とも平年を下回りました。過去5年間（平成30年～令和4年、以下同様）のCPUEの動向は、4魚種とも「減少」の傾向にあります。

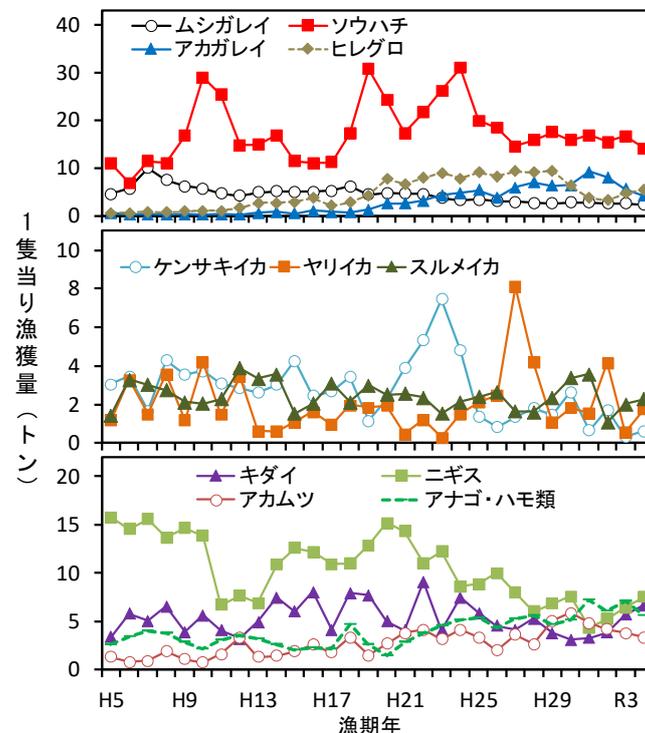


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向

#### ケンサキイカは低水準が続く、ヤリイカは低調

ケンサキイカのCPUEは0.6トンで、前年の2.0倍、平年の4割となり、平成5年漁期以降で最低の水揚げを記録した前年（0.3トン）を上回りましたが、依然として低い水準が続いています。ヤリイカのCPUEは1.8トンで、前年の3.1倍、平年の6割でした。スルメイカのCPUEは2.3トンで前年の1.1倍、平年の1.0倍でした。

#### キダイは好調、アカムツは平年を下回る

キダイのCPUEは6.6トンで平年の1.4倍、ニギスのCPUEは7.5トンで平年の1.0倍、アナゴ・ハモ類のCPUEは5.6トンで平年の1.0倍、アカムツのCPUEは3.3トンで平年の8割でした。過去5年のCPUEの動向は、アカムツは「減少」、それ以外は「増加」の傾向にあります。

この他、アンコウ類のCPUEは10.1トンで平年の1.3倍、マトウダイのCPUEは3.6トンで平年の1.4倍と好調でした。

#### <文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年〔平成24年漁期～令和3年漁期〕の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。
- ☞ CPUEの動向は、当年を含む過去5年間での増減率が5%を超える場合は「増加」または「減少」とし、5%以内の場合は「横ばい」としています。

## 沖合底びき網漁業(2そうびき)

### 1 統当り漁獲量は平年並み、水揚金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 4 統）の令和4年漁期（令和4年8月16日～令和5年5月31日）の総漁獲量は2,149トン、総水揚金額は14億3,741万円でした。また、1統当りの漁獲量（以下、CPUE）は614トン、水揚金額は4億1,069万円で、漁獲量は平年を1%下回り、水揚金額は平年を29%上回りました（過去10年平均：623トン、3億1,861万円）（図3）。

### ムシガレイ、ソウハチとも平年を下回る

ムシガレイのCPUEは30トン、ソウハチのCPUEは24トンで、ともに平年の6割の水揚げでした。ヤナギムシガレイのCPUEは11トンで平年の9割でした。過去5年間のCPUEの動向は、3魚種とも「減少」の傾向にあります。

### ケンサキイカ、ヤリイカとも低調

ケンサキイカのCPUEは32トンで平年の8割の水揚げでした。令和元年漁期以降、秋季（9月～12月）のケンサキイカ漁は不漁が続いており、今漁期も平年を下回る低調な漁況となりました（秋季のCPUEの平年比35%）。ヤリイカのCPUEは4.7トンで、記録的な不漁であった前年（1.3トン）は上回りましたが、平年の4割と低調な水揚げでした。

### アナゴ類は平年を上回る、アンコウ類は平年を下回る

アナゴ類のCPUEは54トンで平年の1.2倍、アンコウ類のCPUEは24トンで平年の7割の水揚げでした。過去5年間のCPUEの動向は、両種とも「減少」の傾向にあります。

### アカムツは平年を上回る、キダイは過去最高となる豊漁、マフグは依然として低水準

アカムツのCPUEは55トンで、平年の1.2倍の水揚げでした。過去5年間のCPUEの動向は「横ばい」傾向にあります。キダイのCPUEは150トンで、平年の2.2倍の水揚げでした。昭和61年以降では過去最高値となる記録的な豊漁となりました。マフグのCPUEは14トンで平年の4割となり、平成29年漁期以降、低調な水揚げが続いています。

この他、マトウダイのCPUEは35トンで平年の1.6倍、マダイのCPUEは38トンで平年の2.3倍と好調であった一方で、マダラのCPUEは8トンで平年の9割、スルメイカのCPUEは19トンで平年の6割、ニギスのCPUEは3トンで平年の3割に留まりました。

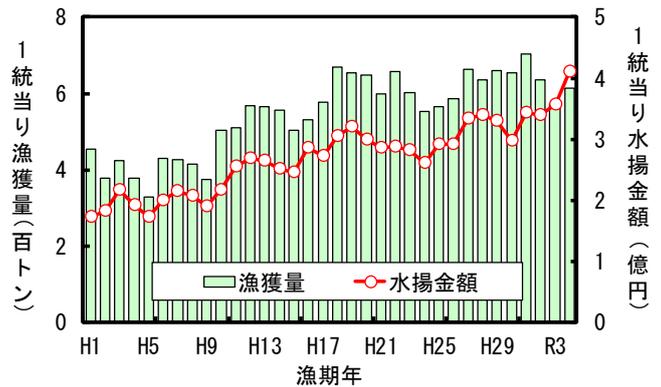


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量・水揚金額の経年変化

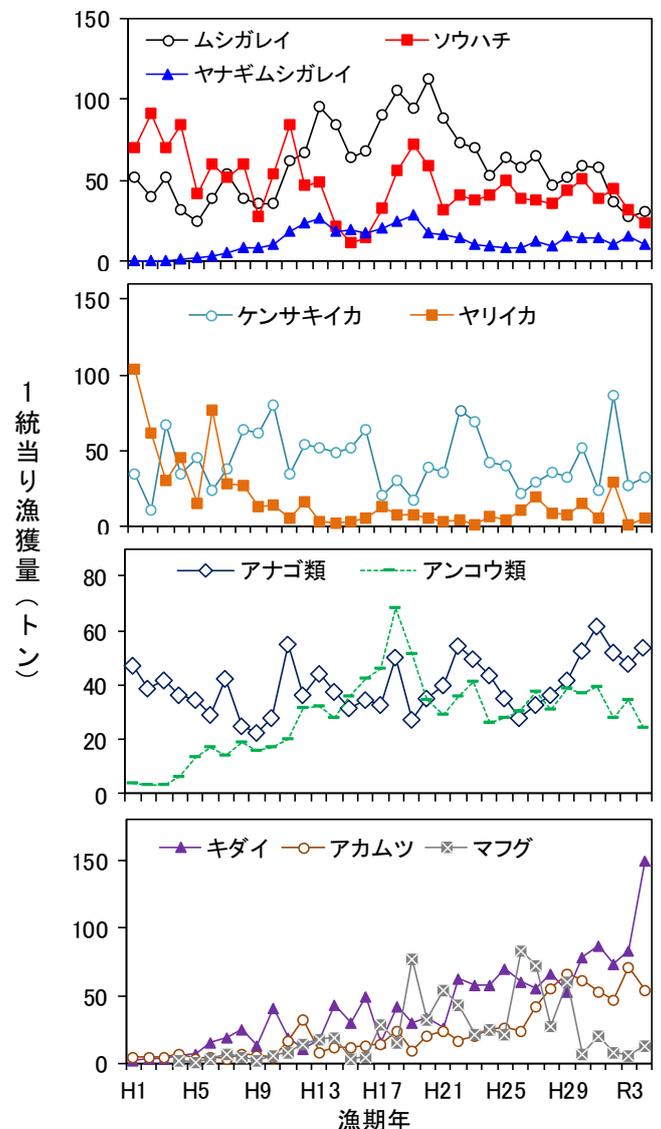


図4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向